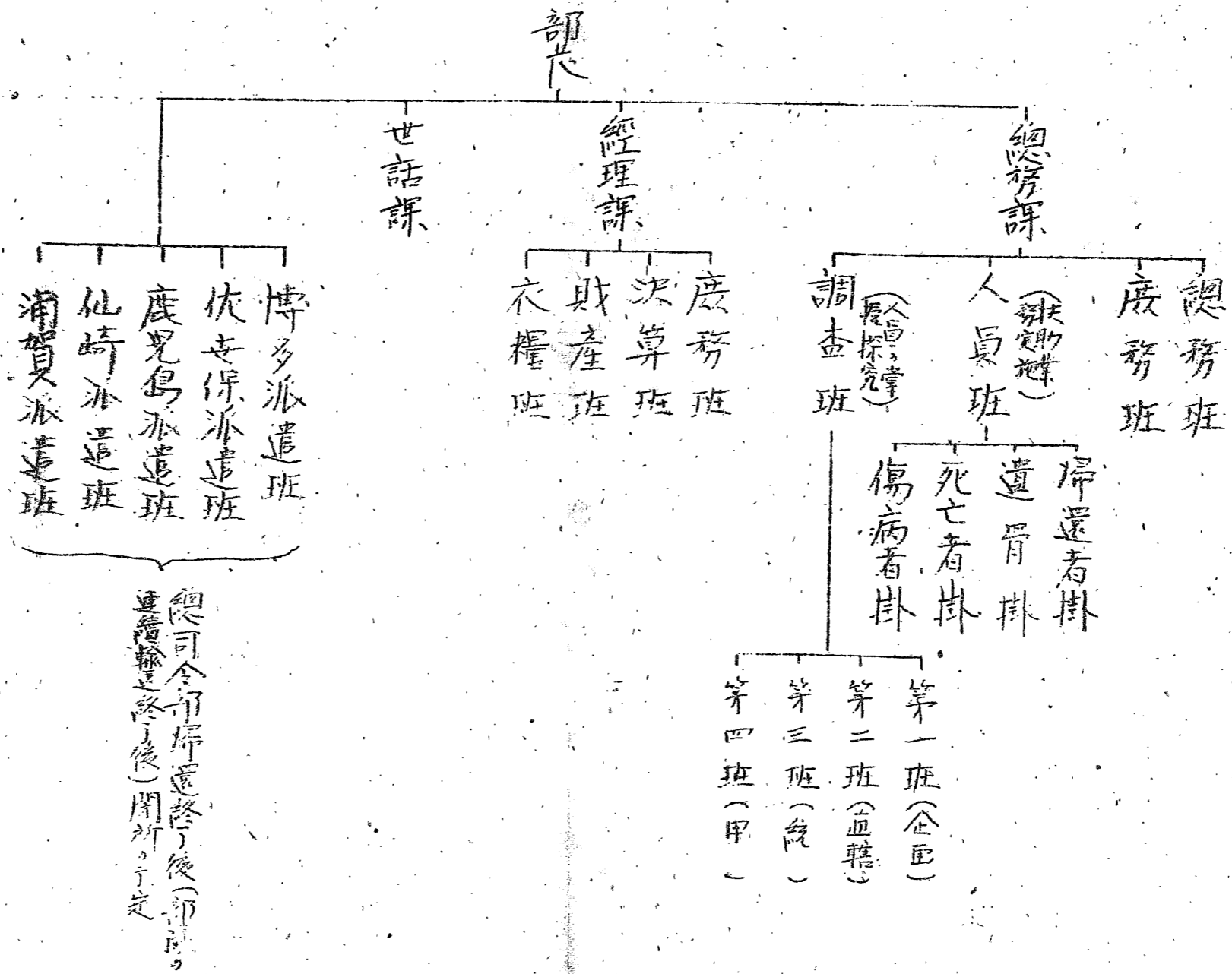


第六 支那残務整理部移管に就いて  
支那残務整理部として日帰還下期に於ける現在従来、帰還部隊受入に伴ふ業務を骨幹とせる業務運営より一変し、新し、残務整理体系を確立し之を推進を期する。転機に際し會せんとしつゝあるものと考へてゐる。依つて人馬の掌握、援助業務、残犯折箇者、後遺業務、災害、衛生、業務等を主体として至短時間に残務整理を終了すべく検討中である。目下の支那残務整理部の機構(案)を別紙に如く設想致してゐる。

0054

八月以降支那残務整理部編制案



總司令部編定後(即部)連署輸送(後)開所(定)

0055

然して尚部業務をして有終之美を發揮せしめんがためには  
○部隊の連續輸送終了後直に東京(留守業務局)に転移する  
事なく現在の業務が一應終了する(これは現在に於いて業務  
定規に任する要あるものと考へあり)

理由

資料は一應二月中に展開しありて之が移動は容易なる  
之要も二月中に一應終るあり

移動を強行するときは動搖を来して成果を擧げ難し

よ年末迄は帰還者も少く之等の掌握上現在地を  
可とす

又人員掌握のためには満幹残務整理部と同位置に位置し  
密接なる連絡を保持し業務連絡するを可とす

0056

又南方年より連絡調査も現在地も可とす

その他總年より照合整理より資料は要すれば其の基礎資料(寫)も留守業務局に送附せば業務上支障なきもと考へる

6 地方各機関との連絡上各地も可とす

而して一應の業務終了の概ね年末頃と設想しあるも今後  
の業務進捗の状況を見て連絡致し度所存である

高岡子業務局及第一復舊局移管引継後と雖も完全には支  
將共か帰還終了する迄は二日中若くは連絡局内に一部を連  
絡班を存置して連絡擁護の業務を續行致し度存へある  
次第である

第七 業務実施上問題となりある事項

一 戦史資料調査

0057

資料全くなき、現在作戦計画の調製や部隊編成表の調製は最も困難にして亦その必要性は少くなく（よ）と存じあり。本件に關し總司令部よりは次々如き意見具申もあり、眞に必要な者に対し必要な項目を限り調製する如く、配慮相煩度い。

参考

總參電第三八〇號

一復電第四三六號返

當方としては東京に於て果して取合年司令部より斯かる詳細にして而も價值少き史実資料提出を強要せしむるも、もろりや甚だしく疑問としあるのみならず以下述ぶる如く到底再調製不可能なるを以て隷下より傳達せざるに付諒

0058

承相成度

一、終戦前既に支那事変開始以来の大部の資料は中央に提出しありしのみならず終戦時保存しありし資料は主任者か帰属判明せる一切焼却せしむる各軍兵團主任者著任前は固より著任後の事項に關しても再調製殆ど不可能なり

二、復員進捗し各軍兵團主任者か大部は既に復員済なり  
三、兵團長以上の大部分は乗船停止を命ぜられあるがなならず輸送終末に伴ふ大部分は戦犯容疑者として拘留せらるる、  
査極めて大なり

四、帰還輸送の進捗上は各地区共複雑困難を多し幾多の問題に直面しありて各軍兵團は物心両面の苦境を打悶管内

0059

軍民の救出を爲す懸念の努力を傾注してある状況にして尙  
要求の史実資料調製の余裕なし

五 終戦後中国側よりも史実資料の提出を要求せしむるも

資料一切焼却せしむる再調製不可能の旨回答せし次第あり

六 假に現在する主任者に於て若任後の事実に関し極りて不

正確なる記憶を頼りて再調製するも之を無事携行帰

還する事は殆ど不可能なり 従来例に見ても東京に於

ける一片の取極りに基き中国戦区各港を無事通過する

如き思ひも及ぼざる身情なきのみならず前項と関聯する任

者帰國禁止問題をも惹起す虞あり

七 尙要求の資料の如き米軍には殆ど利用價值なきのみならず

我が國將來を洞察するも斯る旧式戦術資料は何等

價値なきものと信ず

尚四月二十七日附貴電に基く總年計畫大綱は函調製の上本日南京をお発せり

販訂大依をして携行せしめたり

第八 經費運用上問題とありある事項

旅費通信費等の配當少なく業務遂行に支障大なり

又新聞廣告費等の特別詮議に關して配慮煩じ度い

0061